令和７年１月20日発行（毎月１回20日発行）第543号／ISSN 0289－5161

WCRP

World Conference of Religions for Peace Japan

1
2025
January
No.543

IPCR 国際セミナー2024でのひとコマ（韓国・ソウル）

新春挨拶――杉谷義純 …… 2
新春挨拶――戸松義晴 …… 3
ソウルで「IPCR国際セミナー2024」開催 …… 4～5
「難民を助ける会」来局　トルコ・シリア地震被災者支援報告 …… 6
ACRP執行委員会開催　第10回大会は2026年11月に …… 6
大宮幼稚園父母の会、日本ユニセフ協会来局 …… 7
青年部会『第46回ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金』へ協力 …… 7
薗田稔師ご逝去 …… 8
女性部会「いのちに関する学習会」ご案内 …… 8
今月のWCRP新熟語、WCRPの活動 …… 8

公益財団法人 世界宗教者平和会議 日本委員会

新春挨拶

WCRP日本委員会 会長
天台宗妙法院門跡門主
杉谷義純

昨年の元旦、能登半島地震が発生し甚大な被害が生じました。一年が経ちましたが、まだまだ多くの方々が厳しい避難生活を余儀なくされておられますことに心よりお見舞い申し上げます。WCRPは被災者の皆様が一日も早く安らぎを取り戻すことが出来ますよう、本年も復興支援に取り組んでまいります。

さて、昨年も世界では多くの紛争が発生しました。ある国際シンクタンクが発表したところによると、世界では第二次大戦以来最多となる56の紛争が起きており、また国連加盟国の半数近くの92カ国が国境を超えた紛争に関与しているとのことです。そして、激しい紛争による難民または国内避難民はこれも過去最多と言われる1億1千万人にも上っております。

私たちが生きる現在の世の中は対立や暴力が増大していると言わざるを得ません。自分の国さえよければよいという考えが、独善的で排他的な風潮を国際社会に招き、強い相互不信を増長させているのです。現在の紛争の原因は、ほとんどが我欲の衝突の結果であり、他者の立場に思いを馳せることこそ紛争解決に最も重要なことであります。宇宙船地球号という一つの乗り物に生を受けた私たちは一切の生きとし生けるものと生命を分け合った兄弟姉妹であり、それ故、お互いにお互いの命を最も大切にするというメッセージをたゆみなく発信することが求められているのです。

昨年、WCRP日本委員会は紛争下の人々が平和と安心のうちに生きていくことを目指して第2回東京平和円卓会議を開催しました。ロシア、ウクライナ、イスラエル、パレスチナなどの紛争地域の宗教指導者を東京にお招きし和解のための話し合いを行いました。厳しい国際情勢にあっても宗教者が平和構築の架け橋になること、戦争で引き裂かれたコミュニティを癒していく責任があること、宗教者間の協力を促進するために対話を継続することを、参加者全員によって誓い合うことが出来たことは大きな成果でありました。

また、昨年はWCRPも連携を深める日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）がノーベル平和賞を受賞されたことは、多くの核兵器廃絶を目指す人々に勇気を与え、そして私たちWCRPにとりましても大きな喜びでありました。

本年は戦後80年、原爆被爆80年、そして国連創設80年という節目の年となります。この重要な年にこそ、宗教者による対話を着実にかつ堅実に深めることが大切です。それぞれの宗教が堅持するこうした信念を共有し合い、そして宗教者が協力・連携を深める中においてこそ、この厳しい状況に光明が見出せる道が拓けていくものと、私は信じるものです。このような働きを、本年も皆さんと共に築き上げていきたいと存じます。

新春挨拶

WCRP日本委員会 理事長
浄土宗総合研究所副所長・浄土宗心光院住職
戸松義晴

新年おめでとうございます。

旧年中も世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会のために、温かいご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございました。

昨年は、元旦に発生した能登半島地震への支援から始まり、「『戦争を超え、和解へ』諸宗教平和円卓会議」第2回東京平和円卓会議と「平和のためのAI倫理：ローマからの呼びかけにコミットする世界の宗教」の2つの国際会議をはじめ、ストップ！核依存・和解の教育・災害対応・気候危機・人身売買禁止の5つのタスクフォース、平和研究所、女性部会、青年部会がそれぞれに活動を行いました。

特に、2月に開催された第2回東京平和円卓会議では、最終日には第1回に比べより踏み込んだ内容の声明文がまとめられるとともに、人と人との交流が深められたことは大きな成果であったと思います。会議に集った紛争国・地域の宗教者が、声明文に示された「確認・呼びかけ・行動」をそれぞれの国で実践されていることを期待しています。そしてその実践が、本年前半に計画されています第3回東京平和円卓会議において分かち合われることを願っています。過去2回の会議を通して培った、お互いの経験の共有や共感、芽生え始めた信頼関係のもとで、具体的な「かたち」となるよう取り組みを進めて参りたいと思います。

また、7月に開催した国際会合「平和のためのAI倫理」には、宗教者だけでなく専門家やビジネスセクターの人たちが参加し議論しました。その中で、「私たちは既に、AI開発に莫大な資金を投入し、もはやこの技術革新を止めることはできない。開発は進めるが利用にあたっては社会全体で考えてほしい。特に、宗教者からも意見を挙げてほしい」とのIBMのダリオ・ギル副社長のことばが強く印象に残りました。このような声に対しても、宗教者・宗教界は応えて行かねばならないと感じました。

WCRPは、宗教者・宗教界のネットワークであり、公益財団法人であることの特徴と利点を活かしながら、宗教間だけでなく各界との交流や協働を進めることを通して、戦後80年を迎える2025年も、平和への歩みを進めて参りたいと思います。

日本委員会の役員の皆さま、賛助会員の皆さま、関連団体の皆さまから昨年度いただいたご支援に、改めて感謝申し上げますとともに、さらなるご協力をお願いいたします。

ソウルで「IPCR国際セミナー2024」開催

韓国で開催されたIPCRセミナー

韓国宗教平和国際事業団（IPCR）の国際セミナーが12月18日から20日に、韓国・ソウル市内のホテルで開催された。総合テーマ『東北アジア平和共同体構築のための課題』のもと、日中韓の宗教者、学者など50人が参加した。

IPCR国際セミナーは、IPCRと韓国宗教人平和会議（KCRP）、中国宗教者和平委員会（CCRP）、WCRP日本委員会による共催で2009年から日本、中国、韓国の宗教者らが毎年集い、東北アジアが直面している諸問題について討議している。

開会あいさつに立つ山本理事

18日午後、開会式が行われ、開会にあたりチェ・ゾンスKCRP代表会長（成均館館長）、マ・ジョンピンCCRP副会長（中国イスラム協会副会長）、山本俊正WCRP日本委員会理事（元関西学院大学教授）があいさつした。開催国を代表してチェ代表会長は、「セミナーを通じて韓国、中国、日本三国の宗教界の真の交流と友愛の場となることを心から願う」と述べた。

続いて行われたセッション1は、『AI時代の宗教』をテーマに、マ・ジョンピンCCRP副会長モデレーターのもと、韓国のハン・チャンヒョン氏（聖パウロ修道会神父）が発題した。チャンヒョン氏は昨今の人工知能（AI）の開発と発展によって宗教の地位が脅かされる可能性があると指摘されている現状に対し、これを単なる脅威と見るのではなく、宗教の社会的役割を再考し、刷新する機会としても捉えることが可能と説明した。特に、カトリック教会は技術の肯定的側面に注目してきたとして、AIが健全な社会化の過程と一致を目指すものであれば、積極的に認め、奨励するものであると述べた。他方で、AIの中心をなすアルゴリズムが私たちの精神的、社会的習慣をコントロールする可能性を秘めていると述べ、一部の人による技術仕様の決定はAIの中立性を損なうと警鐘を促し、宗教の立場からは、目先の利益ではなく共同善を追求する倫理的、制度的な装置の必要性が重要であると強調した。チャンヒョン氏はAI活用事例を通じてAI技術の運用状況や問題点を示し、宗教者はAI技術が社会でどのように活用されるかを注視する責任があると締めくくった。発題に対し、バン・ドンヨンKCRP中央委員（韓国成均館対外協力室室長）、グオ・ジンチャイCCRP委員（中国カトリック司教協議会副会長）、金子昭WCRP日本委員会平和研究所所員（天理大学おやさと研究所教授）が応答した。金子所員は、チョンヒョン氏が問題提起した「AIは神のような存在になるか」について、AIが神仏のような存在になったとしても決して神仏ではないのではないかと応答した。また、最も恐るべきAI利用は武器や兵器への軍事利用だとし、国家の複雑な問題をAIに任せるというモラルシンギュラリティ（政治に関する重要な判断をコンピュータに委ねてしまうこと）の危険性を指摘した。

セッション1の登壇者

同日夕方には歓迎夕食会が開かれ、三カ国の代表による挨拶や参加者紹介が行われた。

19日午前のセッション2は、「ジェンダージャスティスと宗教」をテーマに議論が進められた。山本理事をモデレーターに、神山美奈子名古屋学院大学准教授が「ジェンダージャスティスと宗教―キリスト教学校と研究の場から―」と題して発題した。

神山准教授は、キリスト教大学における男性中心の管理構造や、選択的夫婦別姓、

セッション２神山准教授の発題

性被害の問題は女性の尊厳を踏みにじる課題であると提起した。また、プロテスタント教会におけるセクシュアル・マイノリティーへの按手について、日本と韓国の状況を詳細に説明し、「ジェンダーという観点から『平和』を望むならば、セクシュアル・マイノリティーを排除する対象として認識するのではなく、女性と同じく指導的役割を担うものとして認めるべき」と述べた。また、「聖書は時に現代的価値観とすりあわせて解釈されるべきであり、現代的価値観もまた時に聖書と突き合わせて見直すという両者が補完しながら社会思想を形成していかなければならない」とし、東北アジアにおける宗教界からの真のジェンダージャスティスの実現が必要であると訴えた。

発題に対し、ハン・ジェフンＫＣＲＰ中央委員（韓国民族宗教協議会理事）、マ・ジョンピンＣＣＲＰ副会長、三善恭子ＷＣＲＰ日本委員会総務部長がパネリストとして応答した。ジョンピン氏は、イスラームが中国に７世紀半ばに伝わって以降、現地文化と融合して誕生した女性モスク（清真女寺）の存在を説明した。ジョンピン氏は清真女寺の誕生は「女性モスクを設立しないというイスラム教固有の伝統を打破しながらも、宗教的儀礼においてはイスラム教の教規を厳格に順守し、非常に賢明で折衷的な革新であると言える」と述べ、中国のイスラームの文脈におけるジェンダー平等について説明した。三善総務部長は、宗教間対話におけるジェンダーバランスの偏りをＷＣＲＰ国際委員会の事例を用いながら説明すると共に、日本キリスト教協議会が２０２４年３月に採択した「ジェンダー正義に関する基本方針」に対し、「組織としてこのような基本方針を明らかにしたことは意義深い。今後、他の宗教コミュニティにもたらされる影響についても注視したい」と述べた。

セッション２の登壇者

セッション３は、「グローバル文明イニシアチブを通じた人類未来共同体の構築」をテーマに、メン・ジリンＣＣＲＰ副主席（中国道教協会常勤副会長）が発題を行った。ジリン氏は、歴史を振り返り、未来に目を向けるとき、「世界に迫る公共危機と人類の現実的な発展の難題に直面する中で、私たちは異なる文明間の対話を推進し、世界文明間の交流と相互学習のための人文的基礎を強化し、相互理解を増進し、価値観に共通の基盤を見つけ、手を携えて全人類が直面する共通の課題に取り組むべき」と述べ、人類運命共同体の構築の重要性を主張した。その中で、宗教間対話は相互対話の架け橋、相互交流の基盤であるとし、宗教間対話を通じた共通点の発見、共鳴と相互承認が高められると述べた。

セッション３の登壇者

その後、ムンゾンＫＣＲＰ宗教間対話委員長モデレートのもと、チェン・シャオユン中国社会科学院世界宗教研究所所長（中国宗教学会会長）、チョ・ドクサンＫＣＲＰ宗教間対話委員（円光大学インターフェイス研究所ＨＫ研究教授）、松井ケティＷＣＲＰ日本委員会理事（同平和研究所所員、清泉女子大学教授）がパネリストとして応答した。松井理事は、アジア太平洋センターが主催する韓国、中国、日本の共通地球市民教育プロジェクトや、清泉女子大学の地球市民学科について紹介し、寛容性、批判的思考を養うとともに、相手をジャッジせず、歴史や状況の多様な背景を理解し、行動する市民を育てる教育の必要性を述べ、平和教育を通じて人類運命共同体を構築することが実現可能と訴えた。

「難民を助ける会」来局
トルコ・シリア地震被災者支援報告

12月24日、認定NPO法人「難民を助ける会（AAR）」の吉澤有紀事務局次長とトルコ事業担当の竹居志織氏が来局した。WCRP日本委員会は、AARに対し昨年、300万円の支援を行なった。この度、支援の終了にあたり報告に訪れた。

吉澤有紀事務局次長（左）と竹居志織氏

AARは、2012年よりトルコ国内においてシリア難民支援を行なっていた経験を活かし、2023年2月6日の地震発生の直後から支援活動を開始。政府支援の届きにくい山間部を含むハタイ県やカフラマンマラシュ県などトルコ南部5県で支援活動に取り組んだ。

緊急支援として衛生用品の配布、発災から半年後の進学シーズンには子どもたちへの学用品配布、寒暖差の大きな山間部での住環境支援や越冬支援、被災者同士をつなぎ支え合うコミュニティー支援など、時の経過とともに変わる要望に応えて支援を行なってきたという。

学用品の配布

笑顔の少年

震災から1年が過ぎた2024年春ごろになると、山間部にも政府の支援も届き始め、住宅建築などが始まったという。

今後は、トルコ政府主体の復興事業が進んでゆくことを受け、AARは支援事業を終了することになった。

11月の支援最後となった日、冬服などを届けた村を去るとき、子どもたちはじめ村人たちが「We Love Japan」と手を振って見送ってくれたという。

ACRP執行委員会開催
第10回大会は2026年11月に

12月4日、ACRPは執行委員会を開催し、2026年シンガポールで開かれる第10回ACRP大会の日程とテーマを決定した。

大会日程は11月23日（月）～27日（金）。23日に青年・女性の事前会議が行われ、24日から本大会が開催され、27日（金）に閉会する。また25日にはACRP創設50周年記念式典が開かれる。この11月25日は50年前に第1回ACRP大会が開会した日であることから、記念式典はこの日に執り行われることとなった。大会テーマは、Shaping Asia for Peace through Bold and Innovative Action（仮訳：大胆で革新的な行動によって平和なアジアを築く）と決定、今後このテーマのもとに、具体的なプログラムや討議内容が決められていく。

大宮幼稚園父母の会、日本ユニセフ協会来局

11月26日、大宮幼稚園、同幼稚園父母の会、日本ユニセフ協会の代表がWCRP日本委員会事務局に来局した。

大宮幼稚園は、WCRP日本委員会の鎌田紀彦理事が園長を務めており、毎年、大宮幼稚園が主催するチャリティーバザーの売り上げの一部を、WCRP日本委員会を通じて日本ユニセフ協会に寄附を行っている。

日本ユニセフ協会から金子雅彦学校事業部部長、団体・企業事業部の松丸彩乃氏が来局し、大宮幼稚園父母の会会長、副会長から日本ユニセフ協会へ直接寄附が手渡された。

大宮幼稚園では毎年7月頃にチャリティーバザーを開催しており、父母の会では園児が楽しめるゲームの出店や手作りおもちゃの販売などを行い、その売り上げの一部を、世界で貧困や紛争の影響を受ける子どもたちの支援として日本ユニセフ協会に寄附を行っている。寄附の贈呈後、チャリティーバザーの様子が父母の会会長から語られ、日本ユニセフ協会からはユニセフが取り組む世界の子どもたちの支援状況について説明された。

青年部会『第46回ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金』へ協力

青年部会は、12月21日に日本ユニセフ協会が主催する「第46回ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金」に協力し街頭募金を行なった。この募金は、世界の子どもたちの支援のために毎年年末の12月に行われているもの。

青年部会は、平成27年からこの募金活動への協力を行ってきた。当時の石川清哲青年部会幹事長（本門法華宗）は、紛争や飢餓で苦しむ子どもたちを幸せにするためには、人びとのために日々慈しみの実践をする宗教者の協力こそが必要であると強調、以来継続してきた。

本年度は、WCRP加盟教団の20代～30代の青年ら7人が参加し、JR品川駅構内に立った。「世界の子どもたちにワクチンをとどけます」、「募金への協力お願いします！」など大きな声で呼びかけた。子どもたちや中高生、サラリーマンからお年寄りまで幅広い世代の方々から「頑張ってね」「よろしく！」などの励ましの言葉とともに、26,104円の募金をお預かりし、日本ユニセフ協会へお預けした。

薗田稔師ご逝去

WCRP日本委員会顧問の薗田稔先生（秩父神社名誉宮司）が、2024年12月31日にご逝去されました。

薗田師は2000年から20年までWCRP日本委員会平和研究所所員、その間、同評議員、同理事、20年から同顧問をお務め頂き、さまざまな宗教協力・対話活動にご貢献されました。特に、21年まで責任者をお務め頂いた同気候変動（危機）タスクフォースにおいて、埼玉県所沢市における「いのちの森づくりプロジェクト」に多大なご尽力をいただきました。

ご生前に賜りましたご厚誼に感謝の誠を捧げるとともに、ご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈りいたします。

女性部会「いのちに関する学習会」ご案内

女性部会は、2024年度の女性部会テーマに基づき、日本に避難を余儀なくされた方々の「声なき声」に寄り添い、さまざまな文化を持つ方々と地域コミュニティで共に生きるための具体的行動を考えることを目的に、「いのちに関する学習会」を開催します。

講師に、江戸川総合人生大学国際コミュニティ学科長を務めたジョージ・ギッシュ氏（青山学院大学名誉教授）を招き、地域における多文化共生と国際コミュニティ構築の可能性を考えます。

日　時：2025年3月8日（土）
13時30分～16時00分

場　所：清泉女子大学（1号館）

テーマ（仮）：世界をみつめ、地域で共に生きる～ローカルから始まるグローバルアクション～

講演者：ジョージ・ギッシュ氏（青山学院大学名誉教授）

※学習会の詳細については、WCRP日本委員会の公式ホームページにてお知らせいたします。

今月のWCRP新熟語

WCRP事務局が日常の中で感じたことを漢字2文字で表し、新しい熟語を作ります。

進駿（しんしゅん）

新年を迎え、ものすごい勢いで仕事始めの一日が終わりました。今年も勢いよく進んでいく一年になりそうです。

WCRPの活動

《1月》

24日　第4回総合企画委員会（オンライン）

30日　青年部会第3回幹事会（東京・立正佼成会法輪閣）

31日　理事会、評議員会、新春交流レセプション（東京・立正佼成会法輪閣／オンライン）

《2月》

4日　気候危機タスクフォース「いのちの森守る会との懇談会」（埼玉・所沢）

5日　ミャンマーの平和構築に向けた諸宗教と国連／諸団体による円卓会議（東京・フォレストテラス明治神宮）

13日　女性部会会合（オンライン）

20日　人身売買禁止タスクフォース現地学習会（東京・マスジド大塚）

27日　和解の教育タスクフォース第3回会合（オンライン）

27日　ストップ！核依存タスクフォース第5回会合（オンライン）

掲載内容の無断転載を禁ず。

WCRP1月20日号　令和七年一月二十日発行（毎月一回二十日発行）
第五四三号
発行人・戸松義晴
発行所・公益財団法人　世界宗教者平和会議日本委員会
〒一六六-八五三一　東京都杉並区和田二-七-一（普門メディアセンター内）
TEL：(〇三) 三三八四-二三三七　HP：www.wcrp.or.jp　E-mail：rfp-info@wcrp.or.jp
頒価一〇〇円一年分一、〇〇〇円（送共）
（賛助会員の購読料については、会費に含まれている。）